

是れ臨水理學士の赤坂金生山の石灰岩層の論說中に記せる鐘乳石と同一の形なるべし（以上四件魚津中學吉澤庄作）

○南鳥島の珊瑚 南鳥島（珊瑚島なり）に於て神保氏の採集せられたる珊瑚の種類は理科大學動物學の飯塚助教池田講師の鑒定に因れば次の如し

*Madrepora appressa*

*Pocillopora nobilis*

*Pocillopora* sp.

*Astraea* sp.

*Cyphaster* ?

*Stylophora* ?

*Stylophora* ?

○田ノ上山の磷酸鐵 近江田の山上に産する主として黃玉を伴隨する淡褐色の長石に附着する藍色土狀の鑛物は定性分析の結果不純の磷酸鐵なることを知り同一のもの大隅高隈山ダカノに電氣石及煙石英と共産し共に晩成の鑛物にして無機原即ち花崗岩の副成分たる鑛物の分解化合より生ぜしものならん又下野鹽原に産する方言芋石と稱する化石を含む結核の表面には往々綠

藍色土狀の薄皮を以て覆はるゝとあり此物質も不純の磷酸鐵なり又肥後金峯山下其他各地の前代湖池沼の沈澱物中に生物の化石と共産し或は全く之を代填する磷酸鐵は其磷酸有機原より來りしものならん（篠本二郎）

○含金石英脈中の外來包體 筑後豊後大隅薩摩地方の含金石英脈中には種々なる外來包體あり就中著しきものは下の三種とす（第一）石英脈中に母岩の碎片を包めるもの（第二）同じ脈中に母岩に非らざる岩片を包めるもの（第三）同じ脈中に異種の含金石英脈の碎片を包めるもの是なり第一は普通に多く見る所にして或は石英脈の生成中地盤の振動を受けて兩壁の母岩脈中に崩れ落ちて脈中に包まれしものならんが第二は地表近くに於て母岩と稱すべき富士岩若くは凝灰岩等と全く異なりたる黒色粘板岩様の岩片を包むものあり薩摩川邊半島中の鹿籠地方の含金石英脈中に往々散見す此等は地盤の裂縫より高熱の溫泉及蒸氣を噴騰せる際下層の岩層の碎片を搔き取り上部に持來りて泉水の沈澱物中に包みしものか或は現今は形を留めざるも上部に同一の岩層ありて其碎片が脈の生成中裂縫に落込みしものか恐く第一因眞に近さが如し第三は異種の含金